

講義名	観光施設計画論			
担当教員	山川 拓也			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

昨今、大量消費型のマス・ツーリズムに対置するものとして、多様な観光の形態が模索されている。例えば、訪問地の人々における現在の暮らし方や生活様式に接近して生活価値を体感しようとする「観光体験としての生活文化体験」は、現代的な観光のトレンドとして世界的に認知され、日本国内でも積極的に実践される観光スタイルになりつつあった。

その中で、旅行者に「生活文化体験」を提供する重要な装置として注目されたのが、「ゲストハウス (guesthouse: GH)」「ホステス (hostel)」等と称される、主として小規模形態の宿泊施設である。最近では、宿泊機能を越えた新たな利用者間交流を創造するゲストハウスや、地域文化や地域住民との交流を楽しむことができる地域融合型のゲストハウスの出現もあり、その営業形態は進化している。

そこで授業では、地域観光の重要施設として「ゲストハウス」を捉え、グループワークによる「ゲストハウスの仮想プランニング演習」に取り組み、それにより、地域内での観光施設計画の在り方と観光マーケティングについて理解する。

到達目標

本科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。尚、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、個別課題への取り組み等によって対応することとします。

本科目の到達目標は以下のとおりです。

地域内での観光施設の有機的な結合や連携等による、観光施設計画の在り方や観光マーケティングに関する基本的な事柄について理解できようになる。
community based tourism (地域主体・地域密着による観光)に関する気づきを得て、自らの考えによる提案や提言類を表現し、論理的に説明できるようになる。

提出課題
毎回の受講後に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」(responにて実施、出席確認を兼ねる) プランニング演習で立案した内容に関する振り返りレポート(詳細については、授業の中で説明する) 期末レポート(詳細については、授業の中で説明する)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック
ミニッツ・ペーパーに記載の内容で解説等を加える必要があると判断したものは、適宜フィードバックを行う。

評価の基準
下記による総合評価とする。
プランニング演習で立案した計画の内容およびプレゼン発表： 40%
プランニング演習で立案した内容に関する振り返りレポート： 20%
期末レポート： 40%
*「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、教室内に居た者であっても当日の出席は無効とする。
*遅刻(欠席回数)が5回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなる。(失格/E)
*遅刻(時間の長短を問わない)は、2回まで欠席としてカウントする。
*スマホ等の電子機器の使用が私的な使用、私語や講義の妨げ、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
*ミニッツ・ペーパーの記述内容が読める場合、授業者のもとで加算する。
* のプレゼン発表に関する評価は、本シラバスに添付の「発表用コメントブック」に基づく。
* のレポート評価に関する評価は、本シラバスに添付の「レポート評価ルールブック」に基づく。
* レポート作成において安易かつ不正なコピー＆ペーストを発見した場合、レポートの評価をしない。

履修にあたっての注意・助言他
・定員制(満員)で実施するので、履修希望者は教務部の指示に従って手続きを取ること。
・前期科目「観光文化論/文化観光論」を受講済であることが望ましい。
・全体の約半分を「対面グループワーク形式」で進めることから、自らの責任ある取り組みが必須となる。
・「対面グループワーク形式」を苦手とする(あるいは希望しない)学生には、本科目の履修を勧めない。

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献
プリント資料： 講義形式の際には講義レジュメ類を配布する。
参考文献： 講義中に適宜紹介する。

授業計画
1. 科目概要・授業方法・成績評価等の説明(ガイダンス)、観光施設の捉え方(開題)
2. 観光施設としての「ゲストハウス」(概念の理解)
3. 観光文脈での異文化接触・異文化交流におけるゲストハウスの媒介・仲介機能
4. ゲストハウスの実際(ゲストハウス運営者による講話)
5. 仮想ゲストハウスのプランニング演習 - (主旨と内容の説明、グループ分け、アイスブレイク)
6. 仮想ゲストハウスのプランニング演習 - (グループに分かれて、計画策定のためのディスカッション)
7. 仮想ゲストハウスのプランニング演習 - (グループに分かれて、計画策定のためのディスカッション)
8. 仮想ゲストハウスのプランニング演習 - (グループに分かれて、計画案のプレゼン資料作成)
9. 仮想ゲストハウスのプランニング演習 - (グループに分かれて、計画案のプレゼン資料作成)
10. 仮想ゲストハウスのプランニング演習 - (グループに分かれて、計画案のプレゼン資料作成)
11. 仮想ゲストハウスのプランニング演習 - (グループ毎による計画案のプレゼン、講評、意見交換)
12. 仮想ゲストハウスのプランニング演習 - (グループ毎による計画案のプレゼン、講評、意見交換)
13. 観光施設計画の応用的展開 - : 地域の観光まちづくり事業との接続/株式会社宿場JAPAN
14. 観光施設計画の応用的展開 - : 地域の観光まちづくり事業との接続/海外事例(イタリア)
15. まとめと総括

授業形態(アクティブ・ラーニング)	
ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
○ウ：ディスカッション、ディベート	○エ：グループワーク
○オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
(予習：60分/回)「ゲストハウス」「コミュニティ・ツーリズム」「観光まちづくり」に関係するメディア記事や文献等の情報を収集し、授業に向けた予習に努める。
(復習：60分/回)授業の内容(特に理論の説明)を整理し、尚辺事例と照らし合わせるなどして理解に努める。
* 演習の際には、課題等への取り組み時間として授業の前後で各3時間ずつの時間を確保し、準備に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
科目の目標を到達することは、観光ビジネスを理解する上で必要となる知識を修得し(目標)、 「新しい観光」におけるマーケティングやマネジメントの思考に接続して考えられるようになる(目標) ことであり、本学と本学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に関連する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
・グループワーク実施時、教員は助言や各グループとの意見交換等を実施し、双方向性の確保に努める。
・毎回の授業後に実施する「ミニッツ・ペーパー」等の課題への取り組みにおいては、moodleやrespon等のICTを活用する。
・必要に応じて授業中でもresponを使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用
「実務経験あり」 旅行業および旅行サービス手配業での実務経験(欧州を中心とする海外団体旅行の企画作成、営業、添乗、海外駐在、市場戦略策定)によって得た知識・知見を活用し、分かりやすい事例紹介なども取り入れながら、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考
進捗状況によって授業の進行方法や内容を変更する場合があります。その場合には事前に告知する。
新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正が発生する可能性があります。